
2022年度 活動報告書

2023年度 活動計画書

2023年6月14日

第3版

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

代表理事 和 田 隆 博

〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1

TEL 06-6698-4351 ・ FAX 06-6698-4352

MAIL wada@c0d0e.com ・ URL c0d0e.com

目 次

2022年度 活動報告書

学びの支援：子どもデザイン教室	03
学びの支援：デザイン国語	07
学びの支援：子どもデザイン教室KYOTO	08
お金の支援：子どもデザイン基金	08
暮らしの支援：こどもサポートホーム	09
決算報告書	14

2023年度 活動計画書

学びの支援：子どもデザイン教室	17
学びの支援：デザイン国語	20
学びの支援：子どもデザイン教室KYOTO	20
お金の支援：子どもデザイン基金	21
暮らしの支援：こどもサポートホーム	22
予算計画書	23

2022年度 活動報告書

学びの支援：子どもデザイン教室

主幹：和田隆博／井上翔一・久保 晶・島津侑花・辻尾 緑・出口奈津子

1. 子どもデザイン教室事業

2022年度は5月に開講しました。2022年度のタイトルは「自分の気持ちを伝えるレッスン」。レッスンは自分の気持ちを表すアート系レッスンの「作ってコース（後につくるコースに改名）」と自分の気持ちを伝えるデザイン系レッスンの「話してコース（後につたえるコースに改名）」を実施しました。

作ってコースは絵画や工作を作りながら、自分の気持ちを表す力を学ぶことを目的にしました。作ってコースでは一緒にお弁当を食べて、近くの神社で遊ぶことも考えました。しかし安全面を考え、近くの神社で遊ぶことはしませんでした。

話してコースは自分の気持ちを題材に造形商品を作りました。そしてプレゼンやディスカッションを通して、自分の気持ちを相手に伝える力を学ぶことを目的にしました。他にもクリスマス会や発表会を実施しました。

さらにデザイン国語レッスン、日本子ども虐待防止学会での研究発表をしました。加えて京都市下京区に子どもデザイン教室の記念すべき2号店「子どもデザイン教室KYOTO」の開室準備をしました。一方でおとな向けセミナーや親子レッスン・中高生向けレッスンは時間的な余裕がなく、できませんでした。

2. つくるコース（旧称 作ってコース）

(1)カリキュラム

- ①土曜第1・2・3週クラス＝12：30～15：30（月1回）
- ②土曜第4週研究クラス＝12：30～15：30（月1回）
- ③日曜第3週出張クラス＝13：30～15：30（月1回）
- ・目安＝年長児～小学6年生
- ・月会費＝4,400円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円

(2)土曜第1・2・3週クラス

①4月のレッスン：絵本で伝えよう／好きな食べもので伝えよう／すごろくで伝えよう

- ・コロナ禍の影響で4月は2021年度の子どもたちに延長レッスンをしました。
- ・主に一般向けレッスンでは、独自の絵本を完成させ、皆の前で発表しました。
- ・入舟寮の皆さんをお招きした体験レッスンでは、粘土で自分の気持ちを伝えました。
- ・施設専用のレッスンでは、動物すごろくを作って遊びました。

②5月のつくるレッスン：夢すごろくを作ろう

- ・5月から2022年度の開講です。自分の希望や好みを題材に夢すごろくを作りました。

③6月のレッスン：似顔絵お面を作ろう

- ・自己紹介を描いたワッペンを作りました。時間がなく、自分の似顔絵お面は作れませんでした。

④7月のレッスン：へんてこおぼけを作ろう

- ・自分を勇気づけるお守り、へんてこおぼけを粘土で作りました。

⑤8月のレッスン：しらすぎ子ども図書館のマークを作ろう

- ・2023年、堺市に開館するしらすぎ子ども図書館のシンボルマークを作りました。
- ・制作料は制作した全児童に分配しました。

⑥9月のレッスン：思い出時計を作ろう

- ・アナログ時計とダンボールを題材にこの夏の思い出を絵で表現しました。

⑦10月のレッスン：ハロウィンクッキーを作ろう

- ・ハロウィンのクッキーを作り、誰かへの感謝か自分への応援メッセージを書きました。

⑧11月のレッスン：おでかけバッグを作ろう

- ・どこへ行きたいのか？何をしたいのか？自分の希望や夢を段ボールで形にしました。

⑨12月のレッスン：キャラ弁を作ろう

- ・食こそクリエイティブ、自分の好きなキャラクターを題材にお弁当を作りました。

⑩2023年1月のレッスン：作り初めを作ろう

- ・1年間忘れずに続けられるよう、新年の誓いを段ボールで形にしました。

⑪2023年2月のレッスン：チョコたばを作ろう

・チョコレートの花束を作り、誰かへの感謝か自分への応援メッセージを書きました。

⑫2023年3月のレッスン：発表会を楽しもう

・発表会の練習とアドダイセン社のキャラクター、黄色のポストをデザインしました。

⑬総括

レッスンは一般家庭の児童と児童福祉施設の児童が参加しました。大きな特色として、一般家庭の児童はどんな課題も臆することなく制作することができますが、児童福祉施設の児童は「嫌、しない、工作嫌い、閑だからレッスンにきているだけ」などの否定的な言葉で自分を防御し、制作に至れない場面が多くありました。褒められた経験の少ない子どもは自分を見せる勇気が持てずにいるようです。新年度はこうした状況を鑑み、必ず一段上がれるスロープを用意しなければいけません。

また子どもたちが年長者から小学校6年生と幅広いため、どの年代にでも満足できる課題作りが必要です。

(3)その他のクラス

①土曜第4週研究クラス

11月26日・12月11日に四恩たまみず園で、2023年2月23日に大阪西本願寺 常照園で大阪府立大学大学院の調査研究を実施しました。これは創作活動と意見表明力の関係を調査するものです。調査は参加児童が楽しめるようにワークショップ形式にしました。全体で25名の参加がありました。分析結果が楽しみです。

②日曜第3週出張クラス

大凡月1回のペース（4月・6月・7月はコロナ禍などで中止）で田島童園で出張レッスンをしました。2021年度は子どもたちが怖がって作品作りが難しい場面がありましたが、2022年度は子どもたちが慣れてきたこともあり、進んでレッスンができるようになりました。子どもたちの自信に繋がればと願います。

③工芸高校受験対策レッスン

9月から2023年2月まで計10回、大阪府立工芸高校の実技検査対策レッスンとして、デッサン指導・自由描画指導をしました。結果は見事合格でした。

(4)発表会

「休憩時間の過ごし方」を話題に「子どもが普段大切にしていること（価値観）」を聴き出すことで、子どもの意見表明を支援する方法を体験する発表会「自分の気持ちを描く&子どもの気持ちを訊く」を、2023年3月19日に南田辺会館老人憩いの家で開催しました。

①おとなの感想（実親）

- ・6年生になり、家での会話が少なくなった。とても有意義だった。
- ・家では聞けていなかった気持ち、思いが聞けた。
- ・子どもとの話をより深掘りすることができ、何を考えているのか知ることができた。

②おとなの感想（施設職員）

- ・ここまで詳しく子どもの気持ちを聞くことはあまりなかったので良かった。
- ・子どもとゆっくり話す機会がなかったので貴重な時間になった。
- ・子どもが思っていることを絵を通して話ができただすごく良かった。

③おとなの感想（スタッフ）

- ・レッスンを受けた後の子どもの気持ちを推し量ると複雑な気持ちになる。
- ・子どもの声、その声の裏にある真意を読み取るのが難しい。
- ・価値観をみるのが難しかった。

④子どもの感想（一般家庭児童）

- ・親にきちんと言えた。
- ・自分の気持ちが伝えられた。
- ・うまく描けて良かった。
- ・楽しく自分なりにできた。
- ・母さんの話が聞けた。
- ・ママの気持ちがよく聞けた。

⑤子どもの感想（社会福祉施設児童）

- ・わからない。
- ・絵が難しかった。
- ・緊張した。
- ・（レッスンを）うけたくない。
- ・緊張したけど楽しくできた。
- ・しんどかったけど楽しかった。

⑥総括

発表会は実の親子ペア、施設職員と施設児童のペア、教室スタッフと施設児童のペアで実施しました。振り返りの結果からは、愛着関係のある者同士からは、暖かなオーラを感じるくらいの傾聴と意見表明の姿勢が確認できました。一方で愛着関係のない者同士からは、理解し合えない反発と困難が確認できました。

おとなが子どもの意見を聴き、訊くことで、子どもの奥底にある感情が理解できると考えられますが、このことは愛着関係のある者同士でないと理解は深まらないと考えられます。

3. つたえるコース（旧称 話してコース）

(1)カリキュラム

- ①木曜クラス＝17：30～19：00（月4回）
- ②土曜クラス＝9：30～11：00（月4回）
 - ・目安＝小学生中学年～中学生
 - ・月会費＝8,800円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円

(2)木曜・土曜クラス

- ①4月のレッスン：絵本で伝えよう
 - ・2021年度に描いたオリジナル絵本を完成させ、発表と感想の交換をしました。
- ②5月のレッスン：名刺ゲームで伝えよう
 - ・2人一組で相手の似顔絵と呼び名をiPadで描き、名刺のデザインをしました。
- ③6月のレッスン：名刺ゲームで伝えよう
 - ・完成した名刺を相手と交換し、ペア対抗で自己紹介ゲームをしました。
- ④7月のレッスン：へんてこおぼけで伝えよう
 - ・自分を守るお守り、へんてこおぼけを作り、それを皆にプレゼンしました。
- ⑤8月のレッスン：言葉で描く絵本の世界で伝えよう
 - ・発表会で発表する絵本を選び、プレゼンするレッスンです。
 - ・絵本を読んで、推薦文と絵を描き、画材の使い方も学びました。
- ⑥9月のレッスン：言葉で描く絵本の世界で伝えよう
 - ・絵本の読み聞かせをし、作者の意図や自分の主張を文章と絵にしました。
- ⑦10月のレッスン：言葉で描く絵本の世界で伝えよう
 - ・お薦めの絵本にまつわる自身の出来事を、絵にしました。
- ⑧11月のレッスン：マスコット人形で伝えよう
 - ・自分の夢や希望をフェルト糸でマスコット人形にしました。
- ⑨12月のレッスン：クリスマス会で伝えよう
 - ・白玉団子を作ったり、4年ぶりにキャラ弁を作ったりしました。
- ⑩2023年1月のレッスン：アクセサリーで伝えよう
 - ・発表会で販売するマスコット人形やレジンでアクセサリーを作りました。
 - ・発表会でプレゼンする絵本の原稿作りをしました。
- ⑪2023年2月のレッスン：アクセサリーで伝えよう
 - ・販売会に向けてアクセサリー作りを進めました。
 - ・発表会に向けて絵本の発表文を再構成しました。
 - ・チョコの花束、チョコたばを作りました。
- ⑫2023年3月のレッスン：発表会を楽しもう
 - ・ピンバッジやネックレスの仕上げ作業をしました。
 - ・発表会を控え、発表の作文の手直しやプレゼンの練習をしました。
- ⑬子どもの感想
 - ・この1年間で私は自分のことを色々伝えることができるようになった。
 - ・楽しかった。発表ができるようになった。少しハードルの高いレッスンをしてみたい。
 - ・仲良い友だちがたくさんできたとし、皆で話ながら楽しく作業できた。
 - ・いろんなものが作れた。本の読み方やいろんな人の考え方が知ることができた。
 - ・発表が学校でもできるようになった。たかさん、なつこさん、いつも笑顔に過ごせるように！
 - ・クリスマス会や絵を描くことが楽しかった。失敗しても成功しても楽しかった。

- ・文章がよく書けたり、考えたりできるようになった。
- ・レッスンは楽しかったし、人に自分の想いを伝えることができた。
- ・自分の意見をいえるようになって、自分であきらめずにがんばれるようになった。

⑭総括

自分の意見がいえる子になることを目的に、1年間地道にレッスンを組み立てました。子どもたちにとって辛気くさいレッスンにならないよう苦心しました。結果的に前述の通り、最後の振り返りでは想像外に子どもたちの評価が高く、殆どの子どもたちが「自分の意見がいえるようになった」と自覚できた点がレッスンの成果です。

(3)発表会

2023年3月21日に南田辺会館老人憩いの家で発表会をしました。1階は「こどカフェ&ショップ」、4年ぶりの飲食・物販コーナーで、焼きたてパンと子どもたち自作のアクセサリを販売しました。

2階は「言葉で描く絵本の世界」と題し、お薦めの絵本を自分の体験談を交えてプレゼンしました。自分の選んだ絵本を深く掘り下げ、自分の想いを相手に伝え、論理的な納得を得るが発表会の狙いでした。

①おとなの感想

- ・子どもの感性に驚いた。おとなにとっても良い機会になった。
- ・それぞれの発表者が自分の毎日の「生き方」にそって意見を表明できた。
- ・おとなが感じることと子どもとはこんなに違うんだなと気づかされた。
- ・子どもが自分の経験をもとに考えて、どのようにしたいかを聞け、学びになった。
- ・絵本を通して自分の気持ちを伝える手法が素晴らしい。意外性も感じれた。
- ・堂々と自分の考えを述べる子どもたちの成長の瞬間を見られた。
- ・この絵本でこう考えるんだと意外性の連続となるほどの連続だった。
- ・一人一人がんばって今日を迎えたかと思うと、心から応援し続けたいと思った。
- ・発表の方法で子どもたちの思いがこんなに自然に表現されるのだと感動した。

②子どもの感想

- ・人の気持ちが分かった。
- ・皆ハキハキどうどうといえて良かった。
- ・（認定証の）授与式で達成感がとても良かった。
- ・発表会を通して、絵本はいつになっても心を動かしてくれると気づいた。
- ・緊張したけど、発表会を無事終えることができてよかった。
- ・皆が選んだそれぞれの思いがこもった絵本を知ることができて良かった。

③総括

意見表明力の会得はその子の人生において重要です。今回の発表会で子どもたちは、自分の経験を話すことで聴衆に論理的な納得が得られることを実体験しました。また4年ぶりの飲食・物販コーナーでは、ご家族・友人の打ち解けた笑顔に満たされました。ボランティアスタッフの尽力で大成功・大盛況の発表会になりました。

④収支（発表会／雑所得）

- ・収入：184,050円
- ・支出：182,450円
- ・利益：1,600円（次年度こどキャラレッスン運営費に充当）

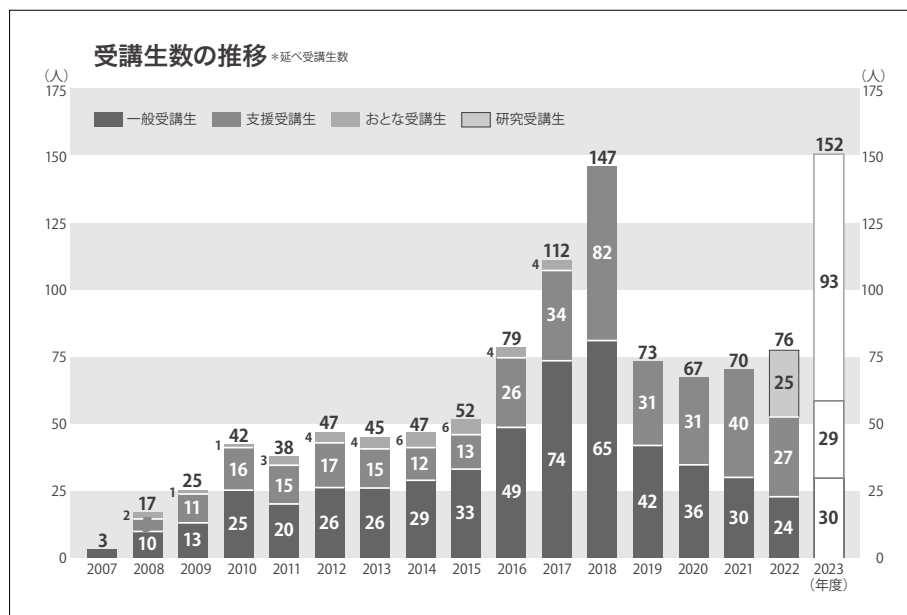
4. クリスマス会

12月18日、キッズプラザ大阪でクリスマス会をしました。意思疎通が悪くトラブルが発生しました。万全を期したつもりの自分に限界を感じはしましたが、子どもたちの満足した笑顔に救われました。ボランティアスタッフの皆さん、大阪東ロータリークラブ様、ロータリーアクト様、キッズプラザ大阪様に感謝しています。

5. 2022年度の報告

- (1)レッスン日数：103日／2021年度96日／2021年度比107%
- (2)レッスン回数：161回／2021年度182日／2021年度比88%
- (3)受講人数：76人／2021年度70人／2021年度比109%
(一般家庭24人・社会的養護児童52人)
- (4)受講延べ人数：1,226人／2021年度1,461人／2021年度比84%
(一般家庭824人・社会的養護児童402人)
- (5)満足度（5段階評価で4以上の割合）：96%／2021年度88%／2021年度比109%

(6)受講生数の推移表



(7)収入（教室部門＊）：2,061,300円／2021年度2,479,400円／2021年度度比83%

＊事業全体の収支は後述の決算報告書に記載

学びの支援：デザイン国語

主幹：伊藤嘉余子・藤井健志・井上翔一

1. デザイン国語

(1)レッスン

9月3日・10月8日・10月8日に大阪西本願寺 常照園で子どものセルフアドボカシー力を育むデザイン国語レッスンをしました。2022年度のテーマは「自分で自分をしあわせにする3ステップレッスン」と題し、①他者理解力を育む、②自己理解力を育む、③意思実現力を育むの3回パッケージのレッスンをしました。

レッスンでは自分の「しあわせ」にとって、特に大切と思うものをおとなとの語り合いから選び、どうしてそれが自分には大切なのか？をさらに語り合って掘り下げました。そして最終日はプレゼン大会です。「褒められたい。自分のがんばったこと認めてもらいたい。褒められたくない。知らない人に褒められても意味がない。みんなでいることが大事。家族や友だちと。一人でいたい。落ち着くから」それぞれに様々な経験を語ってくれました。

その一つ一つに、おとなは自分の意見を述べるのではなく、その言葉の奥にある価値観に辿り着くように、訊くで子どもの自己理解に併走する。そんな簡単なようで難しい、まだまだ可能性と必要性のあるレッスンでした。

(2)学会発表

12月11日に日本子ども虐待防止学会「JaSPCANふくおか 2022」に登壇し、2022年度もデザイン国語のシンポジウムをしました。2018年から5年連続の報告です。2022年度は児童養護施設での出張レッスン「私が私をしあわせにするための3ステップ」子どものセルフアドボカシー力を育むための3日間の研究成果の発表でした。

レッスンの理論枠組み、レッスン風景と子どもたちの感想や職員さんの声を踏まえディスカッション。超満員の皆さんからの質問あり、笑いあり、とても暖かい雰囲気でした。子どものセルフアドボカシーを支援するデザイン国語の挑戦は続きます。

(3)セミナー

8月7日に「福祉×国語×デザイン デザイン国語 in 東京・関東・甲信越・静岡 里親協議会 次世代人材育成セミナー」に伊藤嘉余子理事と藤井健志先生が登壇しました。

また2023年1月29日に「デザイン国語 里親養育研修 in 長野」に伊藤嘉余子理事・藤井健志先生・井上翔一正会員が登壇しました。里親さんや児童相談所の職員さん・心理士さんなど、様々な子どもに関わる皆さんと「自分で自分を幸せにする子どもを育てるために私が大切にすること」の語り合いを通じて、きくを実践を通じて学んで頂きました。

1. 子どもデザイン教室KYOTO

子どもデザイン教室の京都教室の開室に向け、皆さんの後押しを頂きながら進むこととなりました。これは自宅のフリースペースを活用しての開室です。今回、様々な方々の支えと共に、一步を踏み出す大きな力として「こども未来プロジェクト基金」に採択されました。京都東ライオンズクラブと京都地域創造基金の皆さん、どうもありがとうございます。

住所：京都市下京区西七条西八反田町77-13

お金の支援：子どもデザイン基金

主幹：和田隆博・林田全弘

1. 子どもデザイン基金事業

子どもデザイン基金事業は、企業様・団体様・個人様との協同による資金支援事業です。福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」の実施、企業様との協同、活動説明会「こどカフェ」の開催、賛助会員「キッズサポーター」の募集をし、2022年度も暖かいご寄付・ご寄贈・ご支援を頂きました。

2. ご寄付部門

(1)企業寄付

輸出梱包様（＊）、泉州様、ソフトバンク様、ヤフービジネスサービス様、ヤフー様、ベネフィットワン様、LUCCO様、ダイコー様、フォントワークス様、四恩学園様、風の街様、ハイパーワークス様、H2Oサンタ様（阪急阪神ホールディングス様）、大阪東ロータリークラブ様、イーサポート様、摂津金属工業所様、トライアングル少額短期保険様、551蓬莱様（ご寄付月順）17社様よりご寄付を頂きました。

また実質的なご寄付者は個人様になるのですが、ヤフー様に児童福祉のキャンペーンを実施頂き、ヤフーネット基金を通じてご寄付を頂きました。当キャンペーンによるご寄付額は測定できませんが、ヤフーネット基金でのご寄付の総額は2016年度からの累計で518,742円・ご寄付者数1,821人になっています（2023年5月10日現在）。

＊輸出梱包様は継続会員の為、個人寄付として計上

(2)個人寄付

年会費会員52名様、個人寄付会員34名様、継続会員16名様の合計102名様からご寄付を頂きました。6月に2022年度報告書・2023年度計画書を130通手渡し・郵送しました。この結果、13名様からご寄付を頂きました。報告書・計画書の発送の効果があったものと思われます。

また大阪東ロータリークラブ会員の方から多額のご寄付を頂くなど、沢山のお志ある皆さまに支えられていることに深く感謝申し上げます。

(3)会員数：個人102名様・法人16社様／2021年度 個人88名様・法人17社様／2021年度比112%

(4)収入（ご寄付部門＊）：2,498,820円／2021年度1,719,447円／2021年度比145%

＊事業全体の収支は後述の決算報告書に記載

3. 助成金部門

(1)助成金

コロナ禍による売上減少の事業継続支援金として、中小企業庁の助成金100万円をご給付頂きました。また子どもデザイン教室KYOTOの開店資金として、公益財団法人京都地域創造基金の助成金に採択されました。子どもデザイン教室KYOTOは井上翔一正会員の自宅ギャラリーを活用して開店します。助成金はその什器など設備費用として活用します。

(2)収入（助成金部門＊）：1,617,600円／2021年度88,000円／2021年度比：1,838%

＊事業全体の収支は後述の決算報告書に記載

4. こどキャラ部門

(1)こどキャラ

こどキャラは個人様・法人様と協同して、親と暮らせない子どもたちの自立・事業資金を創出する福祉型キャラクタービジネスです。2022年度はしらさぎ子ども図書館様のシンボルマーク（コンペ）、林ケミック様のイメージイラスト、大阪東ロータリークラブ様の週報のイラスト、アドダイセン様（※）のイメージキャラクターを子どもデザイン教室に通う子どもたちが制作しました。またこどキャラ名刺の追加印刷やこどキャラ商標登録を更新しました。※アドダイセン様は未完成の為、2023年度に計上

(2)収入（こどキャラ部門※）：401,010円／2021年度60,000円／2021年度比：668%

※事業全体の収支は後述の決算報告書に記載

(3)内訳：自立資金：157,400円・事業資金：243,610円

5. 企業協賛部門

(1)大阪東ロータリークラブ様・ロータリーアクト様・キッズプラザ大阪様

2022年度も2021年度に引き続き、大阪東ロータリークラブ様、ロータリーアクト様、キッズプラザ大阪様には、クリスマス会の会場やマクドナルドなどの昼食をご提供頂きました。また大阪東ロータリークラブ様には、帝国ホテルにおける例会での講演の機会を頂いたり、発表会では子どもたちの商品を全てお買い上げ頂いたりと多岐にわたるご支援を頂きました。

6. ご寄贈部門

(1)ご寄贈

フードバンク大阪様を始め、6名の方からお菓子や画材のご寄贈を頂きました。

(2)収入（ご寄贈部門※）：192,100円相当／2021年度243,100円相当／2021年度比：79%

※事業全体の収支は後述の決算報告書に記載

7. 理事会・広報部門

(1)理事会

2カ月に1回、理事会を開催し、中期計画や長期計画を話し合いました。

回数：6回（総会を含む）／延べ参加人数：30名

(2)こどカフェ

子どもデザイン教室の活動内容、親と暮らせない子どもたちの問題、意見表明と創作活動の因果関係などをお話する活動説明会”リアル”こどカフェを開催しました。”リアル”を冠した由縁は、2022年度はコロナ禍が明け、ご来場の皆様にミックスジュースを振る舞い、対面で和やかに雰囲気で開催できたからです。

回数：10回（個別面談を含む）／延べ参加人数：22名

(3)取材

社会起業家である施 治安（せ はるやす）さんの企画、YouTube番組「あかりちゃん・はるちゃんの社会起業家コラボトーク」にゲスト出演し、子どもデザイン教室の活動をお話しました。

(4)ホームページ

2020年度より追々ホームページの改訂を始めましたが、作業時間がなく、未だに完成の目処が立っていません。

(5)広報

Facebook・Instagram・Twitter・LINEなどのSNS、ホームページ、ニュースメールを通じて子どもデザイン教室の活動を紹介しました。熱心にご愛読くださる方が多く、嬉しく感じています。

暮らしの支援：こどもサポートホーム

主幹：和田隆博／三木友紀子・山口杏子・布谷つぐみ・和田 幸

1. 子どもサポートホーム事業

こどもサポートホーム事業とは24時間365日の養育支援です。小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を運営し、2022年度は大学生から小学生まで6人の子どもの育てました。この報告書では2022年度1年を月別に振り返りたいと思います。

2. はじめに

4月、ふと見上げると空はピンクムーンでした。月をみると、理解し合えずに飛び出していったある子どものことを思い出します。その子とは夜になると、よく一緒に散歩に出掛けました。その時もよく月が出ていました。私は何度も失敗し、大学院で学び、経験を積み、今ではあの頃とは違う私になっています。

今のこの私でその子ともう一度やり直したいと願いますが、それは叶わぬ夢です。これからの私がどう子どもと向き合うかに私の真価が問われると、失敗から逃げないことをその夜の月に誓いました。2022年度が始まります。新たにどんな子どもと出逢い、どんな1年になるのか期待で胸が膨らみます。

3. 4月：里親が越えられないもの

児童相談所に行きました。子どもが「傍にいて」というので、久しぶりの親子再会の場面に立ち会いました。子どもを抱きしめようと無理強いする実親の姿は、里親にはない姿です。子どもは照れながら、やがて自然に抱きしめられていました。子どもが急に遠い存在に思えました。

好きだから抱きしめる、この実親の姿こそが本来子どもが親に求めるものですが、それは社会的機能である里親には禁止行為です。ここに里親の限界があり、そこには底抜けのパケツのような愛着行動の原因があるのではと思いました。里親の立場を再確認する良い機会になりました。

4. 5月：安心してご飯が食べられたら、それで十分

こどもサポートホームに来て1年、ほとんど自己主張しない子がいます。珍しく晩ご飯に「冷やし中華が食べた」というので、はりきって濃厚ごま冷やし中華を作りました。「美味しいです」とほころぶ笑顔に頑張った甲斐がありました。子どもとの良い関係は一朝一夕には作れないのです。

様々な事情があってファミリーホームで暮らす子どもたちは、おとなの判断より遙か以上の複雑な思いでいます。心を開いて話してくれれば、本人にとって有益な明日があるとおとなは思うのですが、私たちおとなが信じられる存在でないから如何ともしがたいものがあります。

1958年から14年間にわたって瀬戸内海のハンセン病国立医療所で医療活動に従事し、患者と生活を共にした医師・神谷美恵子さんはその詩のなかで「どうぞ同志としてうけ入れて下さい。あなたと私のあいだにもう壁はないものとして」と詠っています（*）。

この詩に同じ思いを感じ、心が落ち着きました。例えば子どもが私たちに壁を建てたとしても、その子が安心してご飯を食べて、ゆっくり寝て、明日のことを考えられるのなら、それで十分。心を通わせたいと思うから心は騒ぎます。だから無になる。最近この無になることに務めています。

*今中博之（2022）『なぜ「弱い」チームがうまくいくのか』晶文社刊より引用

5. 6月：ファミリーホームで世代を紡いでいく

皆さんは「あの時、あれをしておけば良かったな」と思うことはありませんか？私はここ3年間、コロナ禍でできなかったことが一杯あります。親と暮らせない子どもたちにもその歳頃にできなかったことが一杯あります。そうした出来事を取り戻すのも里親のお役目です。

七五三の写真、お人形遊び、旅行など、できるだけ沢山の経験をし、視野を広げてほしいと考えています。それは子どもたちができなかったことを取り戻すと共に、私個人にとってもかつて経験したことを蘇らせる良い機会になっています。

近頃子どもたちが音を立てて大きくなっていきます。そんな子どもたちの未来を想うと、人は死なないと思うようになりました。それは子どもたちのかすかな記憶の中に、毎日のお料理とか、旅行とか、私の言葉とか、きっと生き続けるだろうと思うからです。

最近、私は自身の終わらせ方を考えています。始めるのは難しいですが、終わらせるのはもっと難しいです。2022年で61歳の私が終わりをもし70歳と設定すると、期間は後9年。かつてのがむしゃらなやり方でなく、未来への種蒔きをじんわりやんわりやっていこうと考えています。

6. 7月：自然が子どもを育てる。子どもが親を育てる

私の実子は二人とも情緒的な所があります。それは多分小さい頃から、海や山の自然に親しんできたからだと思います。子どもが小さい頃、私たちは串本や熊野の海、山、川が好きで、毎年よく和歌山に旅行に行きました。私は里子にもぜひその景色を見せてあげたいとずっと願っていました。

透明な潮岬の海や魚一杯の自然の川で泳いで、温泉でほっこりしました。普段風景に興味を示さない子どもたちが、広がる巨大な海や、雲や、色を替える山並みを見て「うわ～！すごい！きれい！」と言う姿に、実子にも言ったように「この景色を覚えておきや」と返すのでした。

里親の適性を考えます。大阪公立大学の伊藤嘉余子先生によると、スコットランドでは里親はFoster Parent（実子のように育てる親）ではなく、Foster Carer（実子のように育てる介護人）というそうです。理由は子どもには本当の親がいるからです。

しかし養育の機能は物理的な「介護」だけなのか、精神的な「親」は必要ないのかと思います。本当の親が親の機能を果たせないから、里親がそこを果たしているのではないのでしょうか。例えば女性スタッフがぐっと抱きしめるとか、子どもには情愛や惜愛の念が必要と考えます。

里親の専門性・特性・個性の3面性の中でも、私は個性を大事にしないと里親は続かない。しかし里親は個性が専門性を越えてはならないと考えます。私は里親を「仕事＝暮らし」と定義します。これは終わりのない暮らしの中の24時間365日の仕事である訳ですから、時に厳しいときもあります。

しかしそこはプロの専門性で乗り越えなければなりません。子どもの養育していると、実子の養育ではおよそ到達できなかった「親の専門性」が磨かれます。それは子どもがそっと教えてくれ、そのことが「私の個性」をより豊かなものにしてくれます。

7. 8月：相反する愛着関係と人間関係

8月、大阪市里親会の研修旅行にスタッフ・ホームの子どもたち全員でいきました。研修講師は私の大学院の指導教員であり、子どもデザイン教室の理事である伊藤嘉余子先生です。伊藤先生には長い間ご指導頂いているのに、今さらながらに発見だらけの貴重な研修になりました。

多くの学びの中から、その一つをご紹介します。『人は生まれてきて私となり、その私を中心として、親→恋人→親友→友達→知人→他人と、内側から外側に広がる同心円で関係性を築いていく。

ところが「人間関係」は逆に他人→知人→友達→親友→恋人→（子を見て）親になると、外側から内側に築かれていく』と説明されました。親と暮らせない子どもたちは「愛着関係」の一番内側の親が突然いなくなったり、親から暴力を受けたりして「愛着関係」が構築できずにいます。

そんな子どもに「人間関係」の一番外側にいる見知らぬ他人の里親が、突然「愛着関係」の一番内側に里親として現れても、関係性はうまくいくはずありません。なるほど、道理でうまく子どもと関係が作れない訳です。今回の旅行中も殆ど口をきかない子どもに「それ位しんどいんだ」と納得するのですでした。

これも伊藤先生のお話ですが、『人は一番頼りにしなければいけない人に厳しく接する。なぜなら肯定的なサインは出しにくい、否定的なサインは出しやすいから』とのこと。納得です。しかしサインはサイン、サインの裏側には同じ「助けて」のメッセージが隠れているのかもしれません。

そのメッセージを汲み取って、その子の未来を素敵なものにしたいものです。こうして文字で書くほど人間関係はうまくいきませんが、伊藤先生の教え、Not React, But Accept（反応しない、でも認める）を心掛け、これからも子育てに精進します。

8. 9月：子どもの人権啓発と、子どもの自己主張力育成

秋の旬と言えばいちじくですが、ある朝、朝ごはん時から一人の子どもが「ゆで卵まずい！いちじく嫌い！野菜イヤ！」と文句のオンパレードでした。今やこの程度のことで腹が立つような私ではありませんから、ふと児童養護の全体を考えます。

ある家庭で、ご飯は毎日白米だけという子どもの話を聞きました。明らかに不適切な養育ですが、そんな家庭は意外に多いと思われます。お金がなくてそうならまだしも、裕福な家庭で、家族の中でその子だけそういう処遇を受けているとなると、これは精神的虐待です。

児童養護施設や里親宅で暮らす一握りの親と暮らせない子どもたちと、過酷な環境下で暮らす多くの一般家庭の子どもたち。子どもたちの心身に与える影響は後者の方が深刻です。前者は目に見えますが、後者は親のマインドコントロール下に置かれており、SOSを出しづらく、目に見えません。

私は「親は子どもの最善の利益を考える者」という考えは誤った固定観念だと思います。そうなるべきことは、①子どもの人権を社会に広めること、②子どもの自己主張力を育成すること、と考えます。その点でうちの子どもは「まずい！嫌い！イヤ！」としっかり自己主張できている、そう思うのですでした。

9. 10月：せめて「ここもちょっとはええなあ」と思って貰えるように

子どもの身上を考えると毎日気が重い昨今です。子どものことを考えすぎて、夜、寝られなくなることがあります。まだ若いのに、どの子も余計な荷物を背負わされて、懸命に生きています。60年も生きている私ですらこうして気が重いのですから、若い当事者の心労は計り知れません。

一方で愛情不足の子どもは、ごねる、泣く、鼻血、おねしょと出せるものは全部出す感じです。これには深呼吸をして「落ち着け、落ち着け」と呪文を唱える毎日です。そんなある日曜日、大学生の子はバイトなどでなかなか一緒に食べられないのですが、久しぶりに子ども全員で夕食を楽しみました。

献立は海鮮丼とあさりの白味噌汁、自分でいうのも何ですが、上等のあごだしでとっているの、本当に美味しいんです。人が集う暖かさは、私にとっては至福の時間です。皆それぞれ、複雑な事情を抱えてこどもサポートホームで暮らしています。

話にならない親もいれば、やむにやまれない親もいます。恐らくは誰も幸せな我が家があれば、そこが一番でしょう。しかしせめて「ここもちょっとはええなあ」と思って貰えるように、あの手この手、自分にできるベストを尽くす毎日です。

10. 11月：子どもの幸福か、親の親権か

離婚後、一方の親権者と暮らす子どもがその親権者から虐待を受けたとします。そこでその子がその家から逃れる為に、別れたもう一方の親（非親権者）と暮らしたいと願ったとします。その際、もう一方の親はその状況を知らない訳ですから、誰かがその願いを伝えないとはいけません。

さてそれを誰がするのか？常識的に児童相談所（以下児相）がその子の思いを伝えるべきですが、児相はそれをしません。理由は「親権者の許可がないから」です。しかし虐待の事実を知られたくない親権者が「はい、どうぞ」と許可をしなかったらどうなるでしょう。

その子は虐待親と暮らすか、施設か里親宅で暮らすしかありません。しかも呆れることに児相は、子どもに別れた親に連絡するよう薦めます。しかし幼い子どもの場合、そんな能力はありませんし、高学年でも虐待親のマインドコントロール下に置かれていたり、電話番号を知らなかったりしたら、連絡など不可能です。

児相は「児相の管理責任が問われるから」と里親にも連絡しないようにいいます。しかし子どもの権利条約第7条に「子どもは（生物としての）父母に養育される権利」があります。それを橋渡しし、子どもの願いを叶えるのが児相の役目です。しかるに児相は虐待親との揉めごとを恐れて行動しません。

しかし揉めるのは児相の仕事です。児相にとって、子どもの幸福権より親の親権が上回るようです。子どもの幸福を追いかけるのはおとなの務めです。きっと沢山の子どもが自分の意に反して、不遇や不満の中で暮らしているでしょう。子どもの声なき声は誰にも届きません。

11. 12月：お正月にその人の本当の姿がみえる

お正月、皆さんはどう過ごされましたか。一人で過ごされた方もいれば、家族や友人・恋人と過ごされた方もいらっしゃるでしょう。私はお家に帰れない子どもと父子家庭のように過ごしました。読者の多くないここだけの話ですから、少々踏み込んだ話をします。

里親をしていると人間関係の性や妙を否が応でも実体験できます。皆さんが当たり前のように過ごすそのお正月は、全国で約42,000人いる親と暮らせないの子どもにとっては当たり前ではありません。親と一緒に過ごしたくても過ごせない様々な事情があります。

昔の話ですが、2019年、こどもサポートホームを始めて初めてのお正月。家族もスタッフも誰もおらず、子どもと私だけの何とも寂しいお正月を過ごしました。生まれてこの方、お正月は家族一緒に当たり前、一年で一番暖かな日と思ってきたものですから、かなりきつい思いをしたものです。

そしてそのとき気付きました。お正月に一緒にいる人こそ、かけがえのない人なんだと。それから年末年始は旅行やご馳走三昧と、できるだけ暖かな思いを子どもにさせたいと工夫しています。一人か家族かと幸か不幸かとは、人それぞれですから関係ありません。しかし「お正月にその人の本当の姿がみえる」は人間関係の真相です。

2023年度はスタッフが変わり、子どもとのお別れなど新たな動きがあります。また新しい子どもとの出会いもあるでしょう。私ごとでは子どもデザイン教室事業や大阪府立大学大学院の修士論文が控えています。時間と健康を大切に新たな想いで2023年がスタートしました。

11. 2023年1月：厳しく叱るよりも養護して守る

子どもデザイン教室をしていると、一般家庭の親御さんの愛情の深さに敬服します。無償の愛というか、良い意味で溺愛というか、親はありがたいものです。またそれだからこそ子どもは、安心して羽ばたき飛び立っていけるのだと確信します。

しかし昭和な私はどうにもこうにもこの溺愛ができません。社会性の教育を重視する父性という観念が強く、また照れくさくもあり、実子に対しても溺愛は難しいです。私の家内は実子のことを「私が産んだアート作品や～」と宣いますので、尊敬します。

例えば子どもが何か大きな問題を起こしたとします。多くの母性の場合、とことんその子のことを養護するでしょう。しかし一方で、それでは社会的な教訓は教えられず、また問題を再発させるかもしれません。悪い行いには悪い結果があることを教えるのも親の務めです。

これが里子の場合はどうでしょう。里親は社会的な教育よりも、とことんその子を養護しなければと思います。なぜならそんな里親がいなければ、その子を守れる人はどこにも誰にもいないのですから。厳しく叱るよりも養護して守る、これはなかなか難しいのですが、それがやがてその子の自立に繋がると考え、努力しています。

12. 2023年2月：里親をして見える世界

ここずっと、子どもをイラッとして叱っていません。当たり前じゃないか！と私が叱られそうですが、里親をしていて、負の感情を制御することは困難です。ここだけの話ですが、私には2つの願いがあって、それは、母親になりたいことと仏門に入りたいことです。仏様のような大慈大悲の心でありたいものです。

そんな私はここ最近「その子の立場に立つ」と「無心」を心掛けています。すると不思議と大きな声で叱らなくなりました。要点は子どもの意見表明の尊重と懲戒権の制御、でしょうか。元駒澤大学教授の許斐有さんは「子どもがおとなと対等に話すことはほぼ不可能」といいました。

そもそもおとなは上から目線で子どもを教育しますが、多分それでは主体的に意見がいえる子どもは育たないでしょう。できないことがあれば対峙するのではなく、手本を見せる、一緒にする、その行動の中から自分の考えを子ども自身が萌芽・成長・熟成させることが肝要でしょう。

よく問題行動といいますが、問題はおとなにとって都合が悪いから問題なだけで、当の子どもにとっては、良いか悪いかは分からない課題です。その課題の原因は何か？なぜその行動をとるのか？その子の側で考える訳ですから、問題にはなりません。こうしてその子の立場に立つ惜愛の念が重要です。

他者理解できない子、責任を持たない子、その場限りで生きる子には連綿と続く課題を一つ一つ孤立させるのではなく、線で繋ぎ、常に今ここに置くことが大切です。里親を続けていると、自身が子育てをしてきたときとは全く違う世界が見えてきます。それを多くの人に伝えたいです。

13. 2023年3月：この春の思い出

3月はこの春の思い出を4つ、綴ってみます。1つ目は小学生の子どもの卒業式です。その朝はリクエストでホットケーキを焼き、おめでとうの文字やプーさんを描いて焼きました。小学校2年生でホームに来てからこの日を迎え、感慨ひとしおです。子どもらの合唱「旅立ちの日に…」では感極まりました。子どもの成長は未来への推進力です。

2つ目は恒例の春のホーム旅行、3泊4日で鹿児島に行きました。ラーメン、黒豚、白熊（練乳と果物のかき氷）を堪能しました。旅の良さは同じものを見て、同じ経験することで、心の奥底の感情を無意識でも共有できることです。雄大な桜島を望み、暖かな初夏の風が心の中までも吹き抜けました。

2つ目は中学生の子どもとお別れです。「はじめに」で述べましたが、私は昔、子どもの声を十分聞かなかった失敗から、この子の声を何度も聞き、今回はその望む未来へ送り出すことができました。彼女がいた空席が今は寂しくはありますが、長くしんどい想いに耐えた彼女。桜咲く大空へ夢一杯に飛び立ってほしいです。

最後に。「はじめに」で述べた夢が正夢になったことをお知らせします。ずっと思い続けて夢にまでみた出来事がその約1週間後、寸分変わらず実現しました。それは、もう会えないと思っていたその子が突然ホームにやってきたのです。夢で見たのと同じ素敵な笑顔でした。顔を見ただけで泣きそうでした。もう一度ここからやり直したいです。

14. おわりに

私はこれまで子どもの課題行動に往生してきました。そしてその改善方法として、意見表明力を育てようと考えてきました。しかし今年度の子どもデザイン教室の発表会で、親子の愛情の深さに触れて、その問題の改善方法は対話でも駄目ではなく、愛情であると確信しました。子どもと相対すると必ず齟齬が生じます。

しかし子どもの側に立てばどうでしょう。共に揺れ、共に感じ、その子の想いを理解すれば、その齟齬はなくなります。この春の発表会で、信頼し合う親子の姿を見て、私は新しい理解を得た想いです。これからの児童養育を提案する子どもデザイン教室とこどもサポートホームの明日にご期待ください。

2022年度 決算報告書

1. 決算報告書

2022年度 決算報告書					
2022年4月1日～2023年3月31日			特定非営利活動法人子どもデザイン教室		
収入の部			支出の部		
	予算	決算		予算	決算
前期繰越金	10,224,782	10,224,782	1 販売管理費		
			役員報酬	1,571,000	1,536,145
1 会費収入			給料手当	331,000	308,390
会員受取会費	2,112,000	2,061,300	法定福利費	247,000	305,272
			外注費	100,000	384,528
2 事業収入			広告宣伝費	437,000	0
子どもデザイン基金事業	132,000	401,010	会議費	23,000	31,410
			旅費交通費	42,000	56,590
3 補助金収入			通信費	251,000	234,718
補助金・助成金	1,000,000	1,617,600	消耗品費	224,000	327,536
			事務用品費	0	86,920
4 寄付金収入			画材費	104,000	185,710
寄付金	1,800,000	2,498,820	水道光熱費	140,000	140,096
			新聞図書費	34,000	9,292
5 販売会収入			諸会費	9,000	13,875
売上金	100,000	184,050	支払手数料	99,000	93,006
			地代家賃	990,000	990,000
			賃貸料	16,000	20,000
			保険料	16,000	47,460
			租税公課	71,000	46,850
			支払報酬料	176,000	165,000
			支援基金費	122,000	157,400
			寄付金	12,000	0
			減価償却費	232,000	231,985
			交際費	6,000	0
事業収入合計	5,144,000	6,762,780	販売管理費合計	5,253,000	5,372,183
			営業損益金額	-109,000	1,390,597
6 営業外収益			2 営業外費用		
雑収入	0	0	雑支出	0	0
受取利息	0	73	支払利息	0	0
営業外収益合計	0	73	営業外費用合計	0	0
			経常損益金額	-109,000	1,390,670
			当期純損益金額	-109,000	1,390,670
			次期繰越金	10,115,782	11,615,452

上記のとおり相違ありません。

2023年5月20日

特定非営利活動法人子どもデザイン教室

監 事 畑 山 佳 之

特定非営利活動法人子どもデザイン教室

代表理事 和 田 隆 博

2. 貸借対照表

2022年度 特定非営利活動に関わる事業会計の貸借対照表

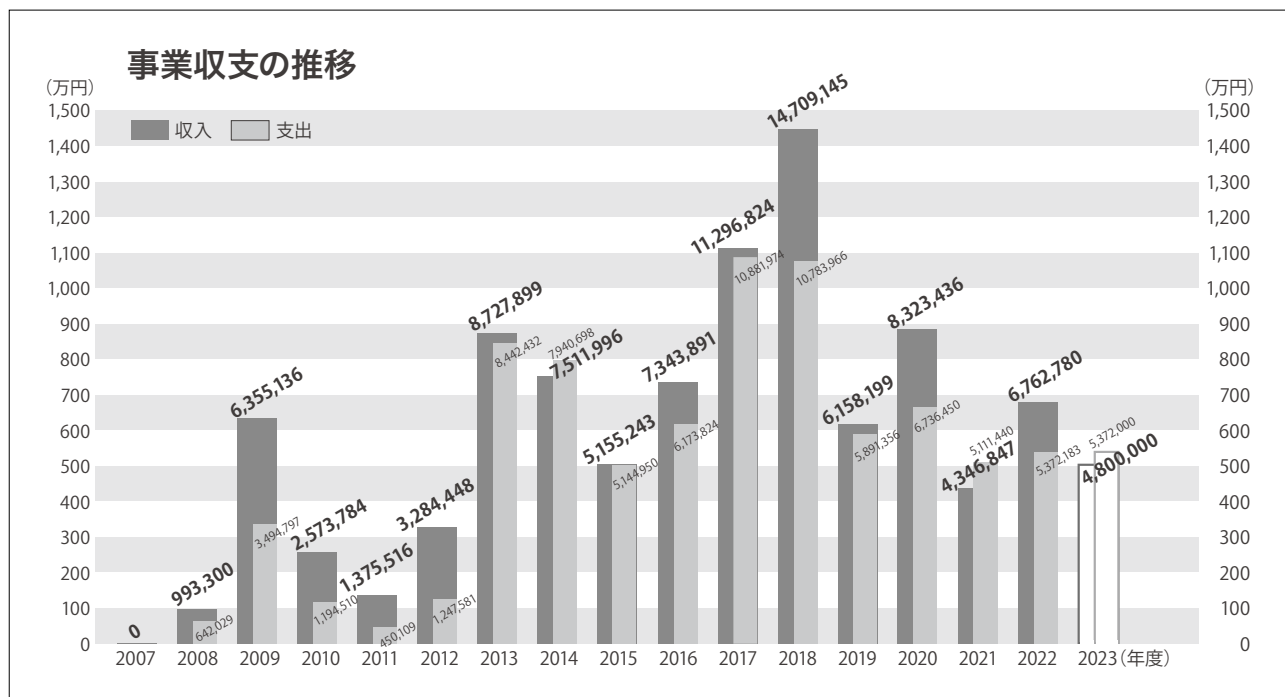
2023年3月31日現在		特定非営利活動法人子どもデザイン教室	
科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
小口現金	78,140		
当座預金	1,733,612		
普通預金	8,784,325	10,596,077	
未収入金	171,380	171,380	
仮払金	154,311	154,311	
流動資産合計		10,921,768	
2 固定資産			
建物附属設備	330,311		
工具器具備品	452,048	782,359	
固定資産合計		782,359	
資産合計			11,704,127
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	82,549		
預かり金	6,126	88,675	
流動負債合計		88,675	
2 固定負債			
長期借入金	0	0	
固定負債合計		0	
負債合計			88,675
III 正味財産の部			
繰越利益			10,224,782
当期純損益金額			1,390,670
正味財産増加額合計			11,615,452
純資産合計			11,615,452
負債及び正味財産合計			11,704,127

2. 貸借対照表

2022年度 その他事業会計の貸借対照表

2023年3月31日現在	特定非営利活動法人子どもデザイン教室	
科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産	0	
流動資産合計		0
2 固定資産	0	
固定資産合計		0
資産合計		0
II 負債の部		
1 流動負債	0	
流動負債合計		0
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
繰越利益		0
当期純損益金額		0
正味財産増加額合計		0
純資産合計		0
負債及び正味財産合計		0

3. 事業収支の推移



2023年度 活動計画書

学びの支援：子どもデザイン教室

主幹：和田隆博／井上翔一・久保 晶・島津侑花・辻尾 緑・出口奈津子

1. 子どもデザイン教室事業

子どもデザイン教室を始めて16年目、2022年度は当初の計画通り、レッスンコースを集約化し、大学院での研究と連動しながら、つくるコースとつたえるコース、2つの「自分の気持ちを伝えるレッスン」を実施しました。また2022年度の理事会では次世代にどう引き継ぐのかを議論しました。

2023年度は2022年度の総括を踏まえ、原点回帰し、作る楽しさを前面にだした「絵と工作レッスン」「こどキャラレッスン」2つのレッスンを実施します。加えて発表会、パッパ食堂、クリスマス会といった楽しいイベントも開催します。また次世代のレッスンである「デザイン国語」と新たに開店した教室2号店「子どもデザイン教室 KYOTO」を力強く推進します。

さらに2023年度以降の中期計画として、子どもデザイン教室のあり方を一から見直し、移転を含めた「次の子どもデザイン教室」を模索します。これに伴いレッスンの形式を大幅に変更し「自分の気持ちを描く＆子どもの気持ちを訊くレッスン」を準備し、また長期計画として、次世代への移行を引き続き検討します。

2. 絵と工作レッスン

(1)カリキュラム

「絵と工作レッスン」は自分の気持ちを絵や工作にすることで、自分を表現する力（自己表現力）を高めるレッスンです。

①土曜第1・2・3・4週クラス＝12：30～15：30（月1回）

②日曜第3週出張クラス＝13：30～15：30（月1回）

③夏休み研究クラス＝11：00～16：00（随時）

・目安＝年長児～小学6年生

・月会費＝5,500円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円

(2)土曜第1・2・3・4週週クラス

①4月のレッスン：休講

②5月のレッスン：君だけのTシャツを作ろう

③6月のレッスン：君だけのアンブレラを作ろう

④7月のレッスン：夏の水族館を作ろう

⑤8月のレッスン：人生ゲームを作ろう

⑥9月のレッスン：思い出の絵を描こう

⑦10月のレッスン：へんてこお菓子を作ろう

⑧11月のレッスン：秋のファッションを作ろう

⑨12月のレッスン：君だけのキャラ弁を作ろう・クリスマス会

⑩2024年1月のレッスン：ミラクルワールドを作ろう

⑪2024年2月のレッスン：未来の絵を描こう

⑫2024年3月のレッスン：3/30⑩発表会を楽しもう・子どもとおとなの発表会

(3)その他のクラス

①日曜日第3週出張クラス

月1回のペースで田島童園で出張レッスンを実施します。

②夏休み研究クラス

7・8月の夏休み、リアン東さくら・助松寮・田島童園で大阪府立大学大学院の調査研究を実施します。これは創作活動と意見表明力の関係を調査するものです。調査は参加児童が楽しめるようにワークショップ形式にします。全体で30～50名の参加を予定しています。

(4)発表会

「学校での過ごし方」を話題に「子どもが普段大切にしていること（価値観）」を聴き出すことで、子どもの意見表明を支援する方法を体験する発表会「自分の気持ちを描く＆子どもの気持ちを訊く」を、2024年3月30日に南田辺会館老人憩いの家で開催します。

3. こどキャラレッスン

(1)カリキュラム

「こどキャラレッスン」ではピンバッジ・人形・アクセサリー・オリジナル商品などのキャラクター商品をおもたち自らが企画・制作します。これらを9月と2024年3月に子どもデザイン教室で「こどカフェ&ショップ」として販売し、売上をおもたちのお小遣いにします。このことで自分の気持ちを伝える力（自己主張力）と生きる力（自己肯定感）を高めるレッスンです。飲食物、ディスプレイ、広告物もおもたちが企画・制作します。

また11月には子どもデザイン教室で発表会「言葉で描く絵本の世界」を開催します。

①木曜クラス＝17：30～19：00（月4回）

②土曜クラス＝9：30～11：00（月4回）

・目安＝小学3年生～高校生

・月会費＝11,000円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円

(2)木曜・土曜クラス

①4月のレッスン：休講

②5月のレッスン：キャラクターをデザイン

③6月のレッスン：ピンバッジをデザイン

④7月のレッスン：マスコット人形をデザイン

⑤8月のレッスン：お店をデザイン

⑥9月のレッスン：9/23㊥こどカフェ&ショップ開店・お菓子をデザイン

⑦10月のレッスン：絵本をデザイン

⑧11月のレッスン：11.23㊦発表会 言葉で描く絵本の世界

⑨12月のレッスン：キャラ弁をデザイン・12/17㊧クリスマス会

⑩2024年1月のレッスン：アクセサリーをデザイン

⑪2024年2月のレッスン：オリジナル商品をデザイン

⑫2024年3月のレッスン：3/20㊨こどカフェ&ショップ開店・お菓子をデザイン

(3)発表会

9月23日と2024年3月20日に子どもデザイン教室で発表会「こどカフェ&ショップ」をします。おもたちが焼いたクッキーや飲み物、おもたちが作った人形やアクセサリーなどを販売します。また11月23日に子どもデザイン教室で発表会「言葉で描く絵本の世界」を開催します。お薦めの絵本を自分の体験談を交えてプレゼンします。

4. パッパ食堂

みんなで作って、食べて、体験してをテーマに西区新町のイタリア料理店「トラットリア パッパ」にてパスタ料理の体験食事会を実施します。日時は7月2日・8月6日・11月5日で、対象は「絵と工作レッスン」のおもたちです。これはオーナーの松本シェフが食を通して社会に恩返ししたいという気持ちから実現した無料の体験型食堂です。

5. クリスマス会

大阪東ロータリークラブ様、ロータリーアクト様、キッズプラザ大阪様のご提供で12月17日、キッズプラザ大阪でクリスマス会を開催します。今年はおもたちの要望を受けて、キッズプラザ大阪で遊ぶ時間を増やします。おもたちのお目当ては何といってもマクドナルドとプレゼント。いまからサンタさんが待ち遠しいです。

6. 2023年度の計画

(1)レッスン日数：114日／2022年度103日／2022年度比1100%

(2)レッスン回数：164回／2022年度161日／2022年度比102%

(3)受講人数：152人／2022年度76人／2022年度比200%

（一般家庭30人・社会的養護児童122人）

(4)受講延べ人数：1,301人／2022年度1,226人／2022年度比106%

（一般家庭730人・社会的養護児童571人）

(5)満足度（5段階評価で4以上の割合）：目標96％／2022年度96％／2022年度比100%

(6)収入（教室部門＊）：2,420,000円／2022年度2,061,300円／2022年度比117%

＊事業全体の収支は後述の予算計画書に記載

7. 子どもデザイン教室の中期・長期計画

(1)中期計画

①社会的養護児童の事業に集中

この項では、子どもデザイン教室の将来についてお伝えします。子どもデザイン教室では運営資金不足から有料の一般家庭向けレッスンを実施しています。しかしこのことが、子どもデザイン教室の本来目的である「親と暮らせない子どもの支援をする」という子どもデザイン教室の主旨を不透明にしていると長く思ってきました。

しかしレッスンを楽しみたいという想いはどんな子どもでも同じです。そこで一般家庭向けレッスンは受講生の自然減を見ながら段階的に縮小し、社会的養護児童の事業に集中しようと考えています。ただしこれは一般家庭の子どもたちを閉め出すものではなく、あくまで自然減を前提に段階的にレッスンを縮小し、さらに有料体験レッスンを開催し、子どもの不利益ならないように配慮します。

目安としては、現在の木曜日と土曜日の「こどキャラレッスン」は2024年度までとし、2025年度からは現在の「絵と工作レッスン」に新しく「自分の気持ちを描く&子どもの気持ちを訊くレッスン（内容は後述）」を加え、実施します。また厳しくなる経営状況を鑑み、2025年度には現在の山坂の事業所を撤収し、創設の地である南田辺（代表理事の自宅）に帰還し、固定経費の少ない運営体制にします。

②新しい子どもの意見表明とおとなの傾聴のレッスン

子どもデザイン教室のレッスンには短所が2つあります。1つ目はキャパシティの問題です。代表理事一人が講師をしますので、受講生の数は限られます。2つ目は子どもデザイン教室のめざす意見表明のレッスンをするには、愛着関係のあるおとなと子どもでないと効果が現れない点です。簡単な話、赤の他人に自分の内情を話す人はいないのです。そこでこの2点を改善し、広く社会に意見表明のレッスンを広めるには、講師と子どもたちのレッスンではなく、里親・施設職員と子どもたちのレッスンに形式に変えた方が効果的です。

そこで子どもにとってはおとなに自分の気持ちを伝えるレッスン、里親・施設職員にとっては子どもの気持ちを訊くレッスンを同時に実施し、子どもの意見表明力・セルフアドボカシーを高めたいと考えます。具体的には子どもと里親・施設職員が子どもと一緒に絵画や工作をしながら子どもの話を訊くレッスンです。子どもはどれだけ意見表明ができたか？おとなはどれだけ子どもの話が訊けたか？がレッスンの肝要になります。楽しみながら対話力を育てるレッスンを開講し、児童福祉施設の場合、固定のペアが受講するのではなく、どの職員・子どもが受講してもよいようにすれば、より効果的なレッスンになります。なおこのレッスンは、一般家庭の親子が受講すればより高い効果が得られます。

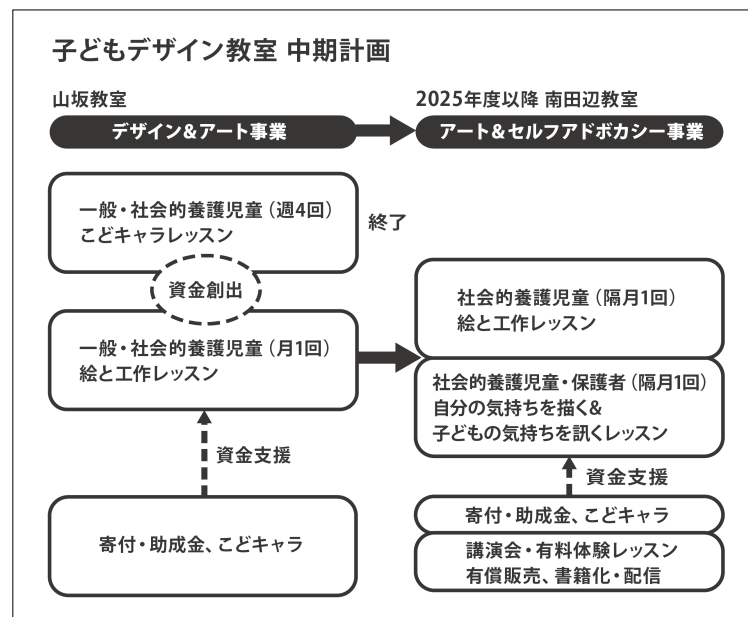
③外に広がる普及活動

こうしたレッスンは広く社会に普及しないと真価はありません。そこで講演会・体験レッスンの開催、レッスンコンテンツの有償提供、書籍化や動画配信による普及を中期的な計画とします。

(2)長期計画

①次世代への移行

2022年度の理事会では何度も次世代への移行について話し合われました。和田隆博代表理事（62）の年齢を考えると、残す時間はそう長くありません。何かあってから慌てるよりも何かある前に備えておくべきと考えますが、なかなか答えは得られません。幸い子



どもデザイン教室では伊藤嘉余子理事、藤井健志先生、井上翔一正会員のデザイン国語が6年目を迎え、また2号店である子どもデザイン教室KYOTOも開室しました。こうした新しい機運にうまくバトンを繋げればと願います。

代表理事に限界が来る前に子どもデザイン教室をあるべきカタチにし、社会的養護児童の意見表明力向上のレッスンを広く社会に普及したいものです。次世代に移行するにしても、運営資金不足に陥らない経営体制を作らないといけませんし、次世代に移行しないにしても、上手な終わらせ方をしないといけません。適切な引き継ぎ方、終わらせ方を模索しています。

1. デザイン国語

(1) レッスン

6月24日、子どもデザイン教室KYOTOにて、里親家庭・児童福祉施設向けに「（仮）デザイン国語 自己紹介による得意や困りの表出、自己紹介による得意や困りの表出」を実施します。内容は自己紹介をピクトグラム化した名刺作りを応用し、自分の得意や困りとそのために必要なサポートを簡易的なピクトグラムで表現します。これは意見表明を見える化するデザイン国語の新たな挑戦です。

(2) 学会発表

11月25か26日に日本子ども虐待防止学会「JaSPCANしが 2023」で2023年度もデザイン国語のシンポジウムをします。2018年から6年連続の報告です。2023年度は子どもデザイン教室KYOTOでのレッスン「（仮）デザイン国語 自己紹介による得意や困りの表出、自己紹介による得意や困りの表出」の研究成果を伊藤嘉余子理事・藤井健志先生・井上翔一正会員が発表します。

また11月26日、同学会では「自分の気持ちを描く&子どもの気持ちを訊く」ワークショップを和田隆博代表理事と伊藤嘉余子理事が実施します。これは参加者がペアになり、おとな役と子ども役に分かれ、お絵描きをしながら子ども役の話を読み取るワークショップです。おとな役はどれだけ子ども役の話を読みだせるか？、子ども役はどれだけおとな役に自分の気持ちが表現できるか？を参加者が実体験します。楽しみながら対話力を育てるユニークなワークショップ。子どもの意見表明力・セルフアドボカシーを高める研究成果の実践です。

(3) セミナー

5月18日に京都の児童養護施設 和敬学園にて井上翔一正会員が職員研修「5つの『きく』」から考える子どものセルフアドボカシーとそれを支える養育者としての3つだけの『きく』in 和敬学園」を実施します。子どものセルフアドボカシー力を育むためのデザイン国語の取り組みを施設職員様にご体験頂きます。

また10月10日に愛媛県児童養護施設連盟の職員研修を伊藤嘉余子理事が実施します。2023年度も積極的にセミナーやFacebookなどのSNSを通して、デザイン国語の啓発活動が続けてまいります。

1. 子どもデザイン教室KYOTO

(1) レッスン

4月1日、一般家庭向けに子どもデザイン教室KYOTOの開室を記念してオープニングレッスンを実施します。また6月24日には前述の「（仮）デザイン国語 自己紹介による得意や困りの表出、自己紹介による得意や困りの表出」を実施します。さらに児童養護施設 和敬学園にて月1回のペースで出張レッスンを実施予定です。

(2) 広報活動

子どもデザイン教室KYOTOの広報活動として、説明ツールの制作、ホームページの制作、プレスリリース、寄付チラシの制作、オンライントークセッションなどを計画しています。

オンライントークセッションは有料チケット制（学生無料）にして、子どもデザイン教室KYOTOの認知拡大、運営資金の創出、子どもデザイン教室のノウハウの見える化を狙った一石三鳥の企画です。子ども向けの居場所づくりをしているNPOスタッフや学校関係者向けに、子どもの主張のききかたなどをテーマに、毎月全9回の配信を計画しています。子どもデザイン教室の理事の皆さんや社会福祉の現場で活躍するゲストをお招きする予定です。

1. 子どもデザイン基金事業

子どもデザイン基金事業は、企業様・団体様・個人様との協同による資金支援事業です。福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」の実施、企業様との協同、活動説明会「こどカフェ」の開催、賛助会員「キッズサポーター」の募集をし、2023年度も暖かいご寄付・ご寄贈・ご支援を期待しています。

2. ご寄付部門

(1)企業寄付

企業様・団体様より総額500,000円のご寄付を計画しています。

(2)個人寄付

年会費180,000円、個人寄付800,000円、継続会員600,000円の合計1,580,000円のご寄付を計画しています。

6月に2022年度報告書・2023年度計画書（本紙）を130通手渡し・郵送の予定です。

(3)会員数：個人110名様・法人16社様／2022年度 個人102名様・法人16社様／2022年度比108%

(4)収入（ご寄付部門＊）：2,080,000円／2022年度2,498,820円／2022年度比83%

＊事業全体の収支は後述の予算計画書に記載

3. 助成金部門

(1)助成金

子どもデザイン教室としての助成金申請は2023年度は予定していません。

(2)収入（助成金部門）：0円／2022年度1,617,600円／2022年度比：0%

4. こどキャラ部門

(1)こどキャラ

こどキャラは個人様・法人様と協同して、親と暮らせない子どもたちの自立・事業資金を創出する福祉型キャラクタービジネスです。2023年度もご依頼を頂いたイラストを子どもデザイン教室に通う子どもたちと制作し、主に子どもたちの自立資金、当法人の運営資金に充当する予定です。

(2)収入（こどキャラ部門＊）：300,000円／2022年度401,010円／2022年度比：75%

＊事業全体の収支は後述の予算計画書に記載

(3)内訳：自立資金：150,000円・運営資金：150,000円

5. 企業協賛部門

(1)大阪東ロータリークラブ様・ロータリーアクト様・キッズブラザ大阪様

2023年度も2022年度に引き続き、大阪東ロータリークラブ様、ロータリーアクト様、キッズブラザ大阪様には、クリスマス会の会場・マクドナルドなどの昼食代をご提供頂く予定です。発表会では子どもたちの商品を全てお買い上げ頂くなど、多岐にわたるご支援を期待しています。

6. ご寄贈部門

(1)ご寄贈

フードバンク大阪様を始め、10名の方からお菓子や画材のご寄贈を頂く計画です。

(2)収入（ご寄贈部門）：100,000円相当／2022年度192,100円相当／2022年度比：52%

7. 理事会・広報部門

(1)理事会

2カ月に1回、理事会を開催し、中期・長期計画を話し合います。

回数：6回（総会を含む）／延べ参加人数：30名／2022年度30名／2022年度比：100%

(2)こどカフェ

子どもデザイン教室の活動内容、親と暮らせない子どもたちの問題、意見表明と創作活動の因果関係などをお話する活動説明会”リアル”こどカフェを開催します。ご来場の皆様にミックスジュースを振る舞い、対面で和やかな雰囲気でお話する”リアル”なカフェスタイルで楽しみたいと思います。

回数：6回／延べ参加人数：12名／2022年度22名／2022年度比：54%

(3)講演

7月29日、阪急百貨店うめだ本店9階祝祭広場で和田隆博代表理事が短いトークイベントに出演の予定です。

(4)ホームページ

2020年度より遅々として進まないホームページの改訂作業ですが、2023年度は一旦休止し、2024年度に再開し、改訂の予定です。

(5)広報

Facebook・Instagram・Twitter・LINEなどのSNS、ホームページ、ニュースメールを通じて子どもデザイン教室の活動を紹介します。

暮らしの支援：こどもサポートホーム

主幹：和田隆博／三木友紀子・山口杏子・吉富留理子・和田 幸

1. 子どもサポートホーム事業

5年目を迎えたファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）。6人の親と暮らせない子どもたちを養育しています。2023年度も2022年度に引き続き、①健康と安全、②生活全般、③学習・運動・余暇、④人間関係と社会性の構築、⑤過去や実家族、⑥自立の支援、⑦職環境の整備、⑧次世代への継承といった8つの課題に取り組めます。

2. 日々改善を続ける8つの課題

2018年から始まったこどもサポートホーム事業（以下ホーム）。立ち上げ当初の子どもの気持ちに寄り添えなかった反省から、研修と実践を重ね、年々改善を続けています。特に2022年度より実践している「子どもの立場に立って考える」はこれまでになかった新しい知見です。こうした多くの経験を踏まえ、現在の課題を以下のように整理しました。

①は健康と安全です。これはホームに関わる全ての人の最優先事項です。特に安全は予防的危機管理と発生時の緊急対応措置を考え、未然の防止と経験を次の予防的危機管理に活かします。

②は食生活・睡眠・衛生・衣服などの生活全般です。食事に関しては高いレベルを日々維持しています。実子を育てたときと同じような養育基準を常に意識します。

③は学習・運動・余暇です。教科学習の強化に偏重した教育には疑問です。できるだけ多くの経験を積むために年3回の旅行、自然や文化体験、塾・習い事、クラブ活動など、本人の意向を踏まえ、バランスの良い教育を考えます。

④は人間関係の構築です。同居する子ども同士を始め、友人・おとな、地域・社会との健全な関係を築きます。また社会性の構築です。他者理解と自己理解を往還し、自己形成・自己実現ができるよう、人・モノ・時間を大切にすることを教えます。

⑤は過去や実家族との問題です。どの子どもも過去や家族と対峙しています。特に2022年度はこの問題に直面し、無事に子どもを望む未来へ送り出すことができました。血縁という絶ちがたい課題にどう向き合うのか、その選択と判断を支援します。

⑥は自立の支援です。自立の支援はもとより、自立後もホームが実家機能となるように配慮をします。

⑦はホームで働く人全ての職環境の整備です。共に長く健やかに働ける環境作りをします。

⑧は次世代への継承です。私たちおとなには、子どもたちの平和な毎日と社会に送り出す責任があります。特に和田隆博代表に万一のことがあったとき、どう次世代に継承するのか？は重要な懸案事項です。

以上、このような複雑な課題に対して、毎日の実践と大阪府立大学大学院での研究を重ねて、日々改善に務めてまいります。

2023年度 予算計画書

1. 予算計算書

2023年度 予算計画書					
2023年4月1日～2024年3月31日			特定非営利活動法人子どもデザイン教室		
収入の部			支出の部		
	決算	予算		決算	予算
前期繰越金	10,224,782	11,615,452	1 販売管理費		
			役員報酬	1,536,145	1,536,000
1 会費収入			給料手当	308,390	308,000
会員受取会費	2,061,300	2,420,000	法定福利費	305,272	305,000
			外注費	384,528	385,000
2 事業収入			広告宣伝費	0	0
子どもデザイン基金事業	401,010	300,000	会議費	31,410	31,000
			旅費交通費	56,590	57,000
3 補助金収入			通信費	234,718	235,000
補助金・助成金	1,617,600	0	消耗品費	327,536	328,000
			事務用品費	86,920	87,000
4 寄付金収入			画材費	185,710	186,000
寄付金	2,498,820	2,080,000	水道光熱費	140,096	140,000
			新聞図書費	9,292	9,000
5 販売会収入			諸会費	13,875	14,000
売上金	184,050	70,000	支払手数料	93,006	93,000
			地代家賃	990,000	990,000
			賃貸料	20,000	20,000
			保険料	47,460	47,000
			租税公課	46,850	47,000
			支払報酬料	165,000	165,000
			支援基金費	157,400	157,000
			寄付金	0	0
			減価償却費	231,985	232,000
			交際費	0	0
事業収入合計	6,762,780	4,800,000	販売管理費合計	5,372,183	5,372,000
			営業損益金額	1,390,597	-572,000
6 営業外収益			2 営業外費用		
雑収入	0	0	雑支出	0	0
受取利息	73	0	支払利息	0	0
営業外収益合計	73	0	営業外費用合計	0	0
			経常損益金額	1,390,670	-572,000
			当期純損益金額	1,390,670	-572,000
			次期繰越金	11,615,452	11,043,452

上記のとおり相違ありません。

2023年5月20日

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
監 事 畑 山 佳 之

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
代表理事 和 田 隆 博

